

# 第4回

## 日本顎顔面インプラント学会総会

○Tsuneo TAKAHASHI, Takao WATANABE, Junichi SATO

Department of Oral Anatomy, Kanagawa Dental College  
First Department of Oral and Maxillofacial Surgery,  
School of Dental Medicine, Tsurumi University

目的：今回、われわれは上顎洞を含む半側上顎骨体ブロック、特に無歯顎の洞  
腔部隔壁を中心に収集したので報告する。

材料および方法：神奈川歯科大学解剖学実習に提供された献体より19体、2  
3個の上顎洞を含む半側上顎骨体を用いた。

1) 結果：25mm水平面下の隔壁は33洞のうち11洞(33.3%)にみられた。

2) 11洞にみられた隔壁の総数は17個で、その内訳は前a隔壁9個、前b  
隔壁1個、後a隔壁7個であった。外側壁での頬骨下縁線からの平均距離  
は前a隔壁13.0mm、前b隔壁23.5mm、後a隔壁8.0mmであった。

3) 洞外4個、洞内1個の洞は1洞(6.1%)にみられた。

4) 大部分の隔壁の走行は、下唇線より前方にあるものは内壁より外前方へ、  
後方にあるものは外後方に向いていた。

隔壁の高さは最大12.0mmであった。

結論：今後、検体数を増やし、サイナスリフト術に關与する洞内構造物の解剖  
学的知見を確立したい。

4 TH JAPAN ACADEMY  
OF MAXILLOFACIAL IMPLANTOLOGY

神奈川歯科大学口腔解剖学教室

※鶴見大学歯学部口腔外科学第1講座

高橋常男、※渡辺孝夫、※佐藤淳一

An anatomical study of the maxillary sinus septa on lift surgery

○Tsuneo TAKAHASHI, Takao WATANABE, Junichi SATO

Department of Oral Anatomy, Kanagawa Dental College

First Department of Oral and Maxillofacial Surgery,

School of Dental Medicine, Tsurumi University

目的：今回、われわれは上顎洞を含む半側上顎骨体ブロック、特に無歯顎の洞底部隔壁を中心に検索したので報告する。

材料および方法：神奈川歯科大学解剖学実習に提供された献体より19体、33個の上顎洞を含む半側上顎骨体を用いた。

1) 結果：25mm水平面下の隔壁は33洞のうち11洞(33.3%)にみられた。

2) 11洞にみられた隔壁の総数は17個で、その内訳は前a隔壁9個、前b隔壁1個、後a隔壁7個であった。外側壁での頬骨下陵線からの平均距離は前a隔壁13.0mm、前b隔壁23.5mm、後a隔壁8.0mmであった。

3) 洞外壁における頬骨下陵線より前方10mm部の隔壁出現頻度は2洞(6.1% / 33洞、)のみで、その前方が8洞、後方7洞に較べて少なかった。

4) 大部分の隔壁の走行は、下陵線より前方にあるものは内壁より外前方へ、後方にあるものは外後方に向いていた。

隔壁の高径は最大12.0mmであった。

結論：今後、検体数を増やし、サイナスリフト術に關与する洞内構造物の解剖学的知見を確立したい。